



やりたい
人妻
との
交わり方

畠山桃哉

いずみ
コミック
HALF



やりたい
人妻との
交わり方

畠山桃哉





僕の部屋の隣に住んでいる女性で…

結婚して夫婦で生活している

黒髪の人妻

その頃の僕は…

じゃあ行ってきます

一人で図書館に入り浸って…

それは僕にとってごく当たり前のことだった

おぼろ

このことが起きるまでは…

あ

あらトモフミくんこんにちわ

あ…どうも…

この人はおぼろさん



それじゃあね

あ…

そこまで深い
付き合いと
いうわけでは
ないけれど…



いい匂いだな〜

彼女を見るたび
心がときめいた



アサミさんは
とても
静かな人だ

隣の部屋で
生活していながら
騒いだり大きな声など
聞いたことがない

そしていつも
マンションの公園で
物静かに
本を読んだりしている

清楚で上品を
絵に書いたような
人だ…



図書館

きっとあんな美人は
旦那はもちろん
たくさんの人から
愛されているに
違いない

同じ本好きでも
ポツちな僕とは
雲泥の差だ…

まあいいけどね
僕は本さえ
読めればそれで…

さて
こないだの
続きは…



さて
次は…と

そんなに簡単に
自分を変えられ
るなら誰も
苦労しないよね…



テーマが
自分を変えるとか
そういう話
だったからかな…



ごめんな
さい…



気まづくなって
部屋から
逃げ込んだ二人

あんまり
熱心に本を
読んでいる
ものだから…
つい見とれ
ちゃって…

小幡さんも
図書館を利用
されるんですね

ええ時々：
でも今日は
特別で：

見納めになると
思ったものだから
一度地元の図書館に
来てみようかと：

私達近いうちに
引っ越すんですよ

だから…

え？

そそうなん
ですか…

なんてこった
今日は人生
最悪の日だ…！

……

実はね…

ずっと
気になってたんだ
トモフミくんのこと

隣に住んでる
男の子って
どんな子なんだ
ろうって

アサミさん…！？

トモフミくんも
気にしてた
でしょう？
私のこと

だから私も…ね





それで思ったの

昔の私と同じで
他人とうまく
距離が取れない
子なんだなって

え？
アサミさんが…



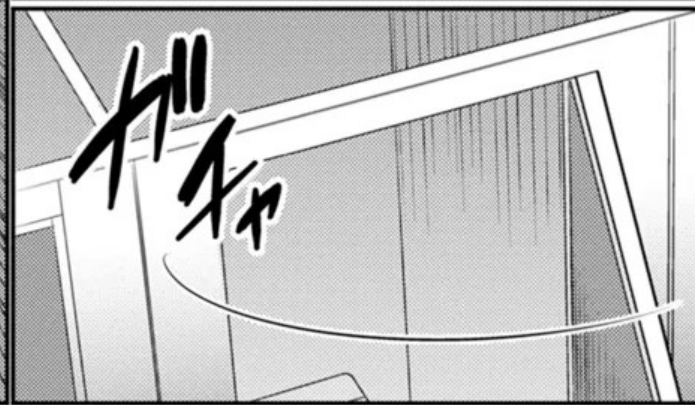
そんな風に
みえない？
私も子供の頃は
ずっと一人ぼっち
だったのよ



でもそのうち
違う世界が
あることに
気づいたの

トモフミくんにも
知ってほしいな…
いろんな世界

……





女性特有の匂いや
温もり…



アサミさんと
キスするなんて…っ

信じられない
こんな…



本物の女の人って
こういう感じ
なのか…!



すごい…
もう
爆発しちゃい
そう…っ



ふふ…
トモフミくんの
当たってる…

私のカラダで
感じてくれているのね…
嬉しいわ…



ああ…
アサミさん…っ
ちよつと
まって…







ああ…っ

ああ
あ

ああん

ああん

ああん

ああん

ああん

ああん

ああん

入ってきた…っ
トモフミくんの
オチンチン…っ

いいわ…
上手よ…っ

奥までしっかり
届いてる…っ

1016

1016

1016



これが
女の人の
膣内…！



めちやくちや
気持ちいい…っ

生暖かくて
ぬめぬめして…



チンコが
蕩けそうだ…っ



ああん
気持ちいい…っ

その調子で
腰を動かして…っ



私も動きたく
なっちゃった…！

ええ？

ごめんね
トモフミくん



stat! stat!

あん

私も
久しぶりだから
気持ちよくなって...

それに
トモフミくんの
おちんちん
想像以上に
素敵なんですもの...っ!

しゅっしゅっ
しゅっしゅっ

しゅっしゅっ



あん

あ

もう少し
我慢して...

そんなに
動かれたら...っ!!

ああダメです
アサミさんっ

私ももうすぐ
だから...っ

んんん
んんん

んんん
んんん



それで…あの…
まだいいですか!?

ふふ…
全然衰えて
ないのね



すみません
アサミさん
もう我慢
できなくて…

いいのよ
よく
がんばったわね



もちろん
いいわよ
トモフミくんの
気の済むまで…

好きなのだけ
気持ち
ぶつけてみて…



ああ…んっ



アサミさんとセックスしてるんだ…っ!

僕は今本当に…

あんな

あんな



射精したばかりなのに全然熱くて硬い…っ

すごいわ トモフミくん…っ

あんな



ああ… ずっと憧れてた黒髪が目の前で揺れている…



ああ…っ オチンチン 膣内でまた大きくなってる…っ

とっっても気持ちいい…っ

あんな

あんな



いつも嗅いでいたあの匂い…っ!

たままない…っ!



アサミさん…っ!



トモフミくんと私の：
こんなに相性よかつたのね…！

今度は私が先にいきそう
だわ…っ

16

16

16

おん

おん



ほ僕ももう射精そうです…っ

ぬぶ

ぬぶ

ああん…
もうイクわ…っ

いいわ…

16

16

今度は一緒に…
いきましよう…っ

ぬぶ

ぬぶ



数日後
アサミさん夫婦は
引っ越してしまっ
た

しばらくして
僕のもとに
アサミさんから
本が送られてきた

これは
あのとき
僕が図書館で
読んでいた本…

あれから僕は
変わったのか…
正直言って
わからない

アサミさん…

ただ少しは
前向きになれたのと
年上好みの趣向に
拍車がかかったのは
間違いない

END



そお？
よかったわ〜

そして
この女性は
島口真琴さん



召し上がれ〜

はい
どーぞ



僕の名前は
嶺川 智紀

いいいただき
ます…

ママみある人妻



おいしいです…

はい

ごく普通の
会社員を
しています…

どう？
おいしい？



どうして
このひとが
僕の食事を
作ってくれて
いるのか…

僕の部屋の
隣に住んでいる
人妻さんです

たくさん
食べてね



はあ
本当に美味しいな
マコトさんの
ごはん…

それ以来
真琴さんは
なにかと僕の世話を
買って出てくれたのです



それは僕が
慣れない
社会人生活で
疲弊しまくった結果…

部屋の前で
行き倒れたのを
真琴さんに
助けて貰ったのが
きっかけでした…

ちょっと
大丈夫!!



智則くん
ほっぺに
ご飯粒…

え?



こうして
私生活を支援し
相談にも
乗ってもらい…

仕事も
自分にあった
会社に転職…



あわてて
食べなくても
いいのよ

まだいっぱい
あるんだから…



真琴さんの
おかげで
僕の人生は大きく
変わったのです…

すみません
なにか
なにまで…

いいのよ
好きで
やってるん
だから

水につけた
だけだから
皿洗いは
お願いね

そしてもう一つ
真琴さんに
お願いしていること…

それは…

すみません…
あとあれも…

本当に
甘えん坊ね
智紀くんは…

気持ちいい？

いいわよ

さわ

さわ

はい
とっても心が
落ち着きます…

すいません
いつもいつも
わがママを
聞いてもらって…

あの…
旦那さんは…

しかし…
今日はいつもと
勝手が違って
いたのです…

ねえ
智紀くん…
わたし
思うんだけど…

智紀くんは
自信を持てる
ようになれば
もっと上手く
いくんじゃないか
かしら？

あの人なら
気にしなくて
いいわ…
帰り遅いし

好きだから
私に甘えて
いいのよ…

こうしていつも
真琴さんは
僕のストレスを
軽くして
くれました



あっ!!

いままでにない
経験を積んで
みる…とか?



うくん
たとえば…

それって
つまり…



真琴さん
…!?

ごめんね急に…
でもいつもここ
苦しそうだったから…

びん
びん



ああ…っ!

大丈夫よ
私に任せて…

しゅわっ
しゅわっ







ああん…
わかる
智紀くん…っ

オチンチン
すごく
腔奥まで
はいつてるよ…!!

ああん
ああん

ああん



童貞卒業
おめでとう

すすごく
気持ち
いいです…っ!

ああん

ふふ…
うれしい

ああん



どお
はじめとした
感想は…?

たくさん
抜いてあげる
から…っ

いっぱい
気持ちよくなって
頂戴ね…っ!





ああん…
素敵よ
このオチンチンっ

とつても立派だし
臆奥まで届いてる…っ

脈打って
ゴリゴリしてて
すごく
男らしいわ…!



こんなに逞しいもの
持つてるじゃない…

自信を持って
いいのよ…!

真琴さん…



TOLK

TOLK

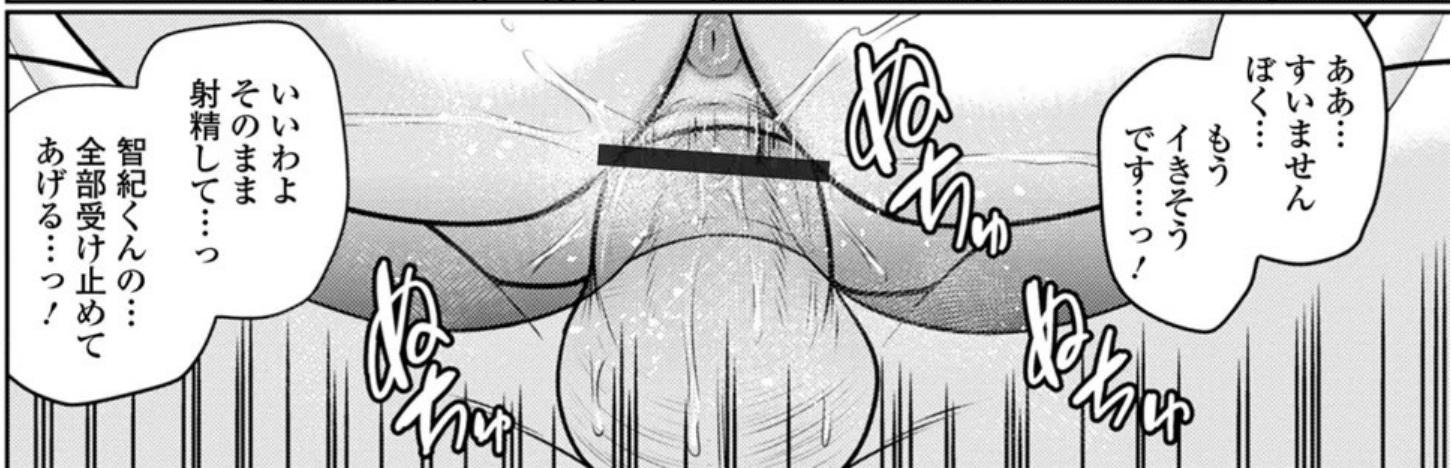


腰を
振ってみて
智紀くん…

もっと
気持ちよく
なりましょう…!



オチンチンが
刺激を受けて
気持ちいい
でしょう？



すごく
激しい……っ

おんっ
おんっ
おんっ

オマンコ
壊れちゃそう……っ

おんっ

あふ

すすいません
マコトさん……!

真琴さんの
オマンコ
すごく
気持ちいい……っ!

腰が
止まらないん
です……っ

おんっ
おんっ

でも……
あまりに
気持ちよくて……

……智紀くん

おん

おん

おん
おん
おん

僕が真琴さんを
こんな顔に
しているのか…!

真琴さん…
すごく
キレイです…!

あぁ

ふんっ

ふん

はぁ

もう…
なによ急に

あぁ
ひん

そうよ…

真琴さん…

智則くんの
オチンチンで
すっかり
蕩けちゃった…

ん

余裕が
出てきた?
カワイイわねえ

ごめんなさい
今度は私が
イキそう
だわ…っ!

ん

おねがい…
一緒に
イキましょう…っ!

ん

ん

ん

ん



イクわ...っ
イク...っっ!!



ふん

おっ



いっぱい
射精たわね…
智紀くんとの
セックス
最高だったわよ…

あ
あ
あ

あ
あ
あ

はい…

お陰様で
なんか自信が
ついた気が
します…

でも…

でも…

自信がついても…
またしたいです…

真琴さんと…

もお
なんの心配
してるのよ!

すみません…

END

最近の俺は
ずっと寝不足だ…

それは安月給で
遅くまでこき使う
会社のせいでもあるが…

始まったか…

あん

あつ

一番の原因は
この隣に住む
夫婦のせいだろう…

ズボラな人妻

ポロアパートで
声が筒抜けの
ところに持ってきて…

とにかく
この夫婦は
ほとんど毎日
セックスするのだ…!

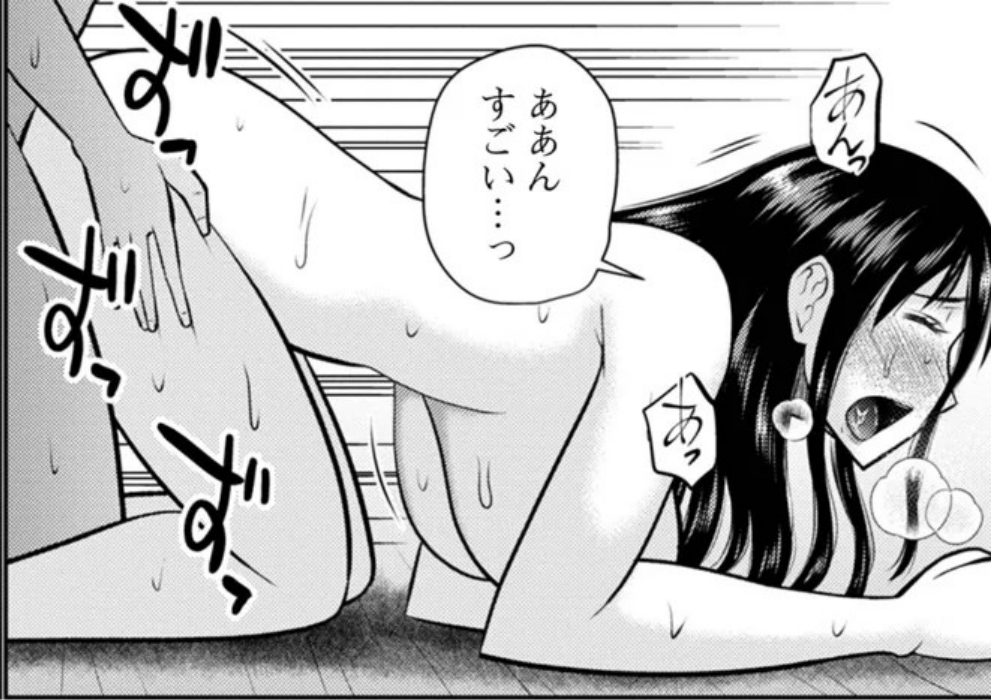
はああん…っ

あん

あつ

あつ

あつ







勝手に
オカズにしておいて
なんだが
とにかく俺は
この状況にひどく
苛ついており…

そのせいか
俺はつい
とんでもないことを
口走ってしまった…!



どうも…

ああ
ゴミ出し
してたのか…



おはよう
ございます



あいか変わらず
ノーブラか…



気持ちいい…っ

ああん…っ

…



毎晩
ご精が出ますね…

あの…

んん



とにかく俺は
疲れていたのだ…!

うーん

言った後
しまったと
後悔したが…
あの嬌声を
聞かなくて済むなら
それもいいかと思った…

カッ
カッ
カッ
カッ



……

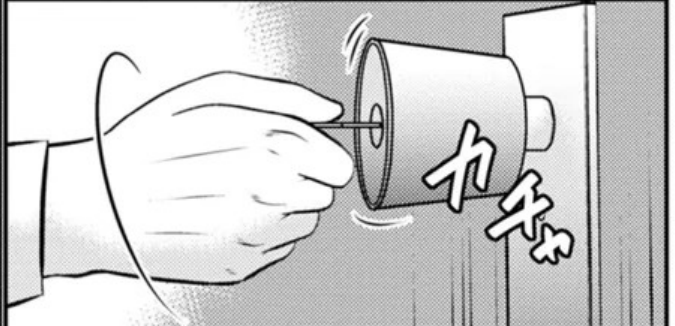


あの…

キョッ

事態は
思わぬ方向へと
進んでいった…!

しかし…



カキ



いいや…

毎晩ご迷惑を
おかけしていた
みたいで…

その後の
彼女の言い分は
こうだった



ひえだまさき
稗田雅紀さん…
でしたよね

隣に住む
布施志津香と
申します…



貴方の話を
疑うわけではないが
一応確認したい

ついては一度
貴方の部屋に
上がらせて
もらえないか…と



…

一瞬いろんな
想像が頭の中を
駆け巡ったが…

結局…

彼女の
言い分を
聞き入れる
ことにした…

どうぞ…

カキッ



こっちの壁側ですよね私の部屋…

えええ…

そーいや俺の部屋に女がきたの何年ぶりだろう…



ふふ…
恥ずかしい…

毎晩私達の声聞かれてたんだ…

確かにこれなら隣の音も丸聞こえかもしれないですね…



実は私達…

同じ理由で以前住んでいる部屋を追い出されたことがあるんです…



だからまた同じ理由で部屋を追い出されると凄く困るんです…

ちょ
ちよ
ちよっと…



ねえ 雅紀さん… よかったら一緒に…

騒音問題を解決しませんか…?



だってこんなにカチカチ…

あ…っ

ああんたそれ本気で言ってるの…!!



私…ズボラなんです

だから貞操観念も超テキトウ…



ふふ… 雅紀さんも期待してたんじゃないですか？



ちなみに夫はもう寝てますから…

安心して下さい…



こうして俺は
流されるまま…



隣の人妻と
一線を越えた…!



いいわ…
とつても素敵…っ



ああん
挿入いって
来たわ…っ

雅紀さんの
オチンチン…っ



すげえ…！

あー

あー

あー

あー

あー

ああん…っ！

それに毎晩
聞いてた
アノ声…っ！

ぬちゅ

ぬちゅ



征服感が
半端ねえ…っ！

あー

あー

あー

めちやくちや
興奮するな
これ…っ

こんな顔して
毎晩旦那に
抱かれてたのか…！



あー

あー

あー



ああん…っ

ああん

だめえ…っ

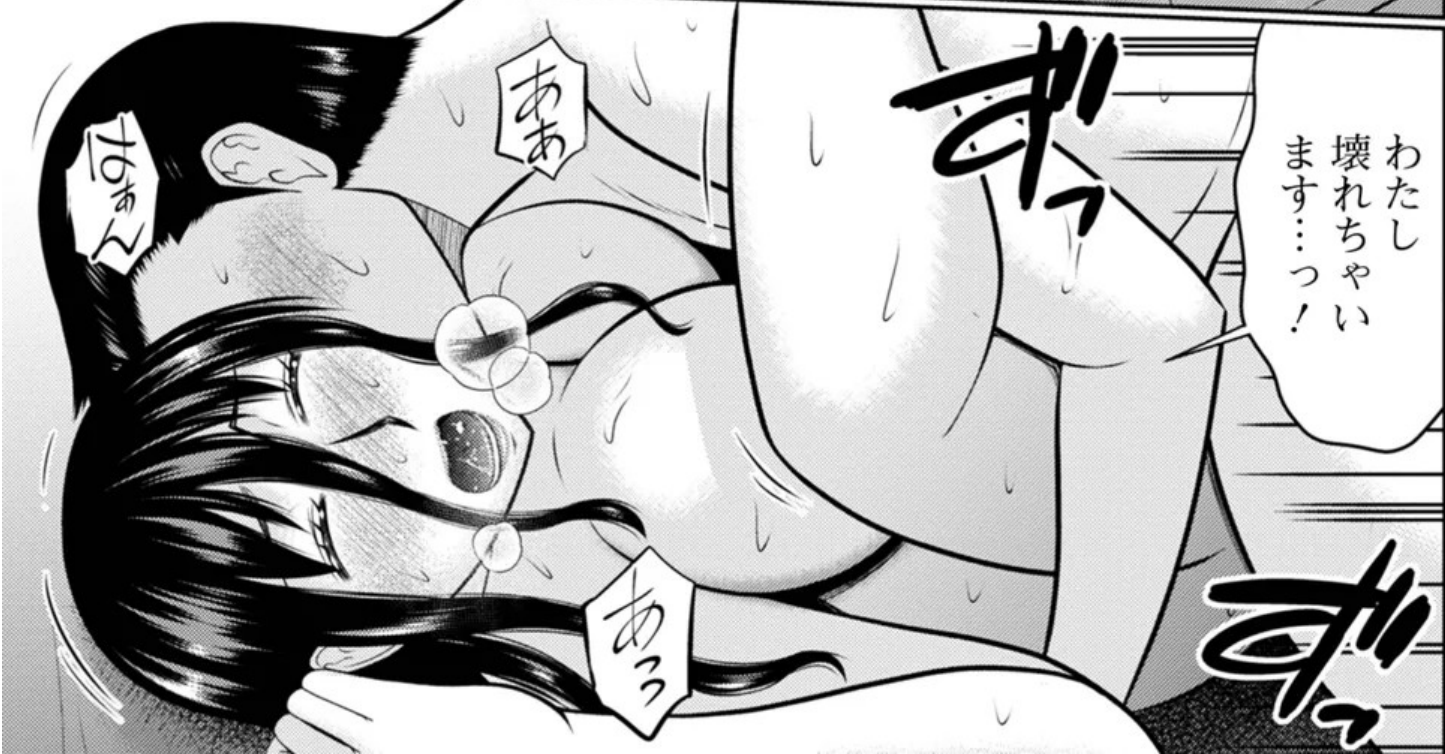


オチンチン
腔奥まで
来てる…っ

ああ…
すごい…っ

雅紀さん
なんて
激しいの…っ

ぬちゅ
ぬちゅ



わたし
壊れちゃい
ます…っ！

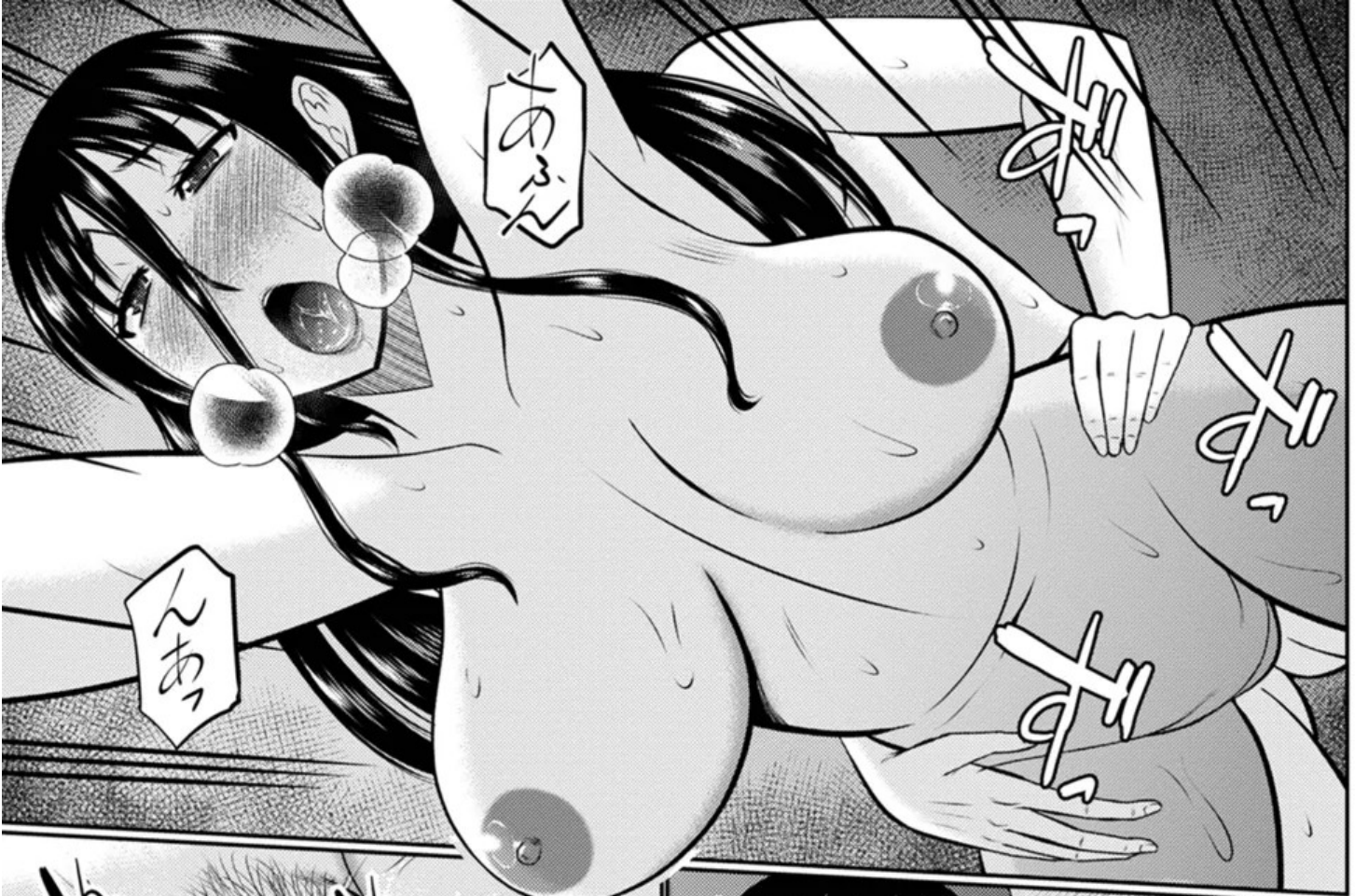
あぁ

あぁ

あぁ

あぁ











その後
隣の嬌声に
悩まされることは
なくなったが…



体の疲れは
以前よりいっそう
酷くなってしまった…



END

その日
この俺
前野満は

隣人の
三原夫妻に招かれ
夕食をともにした

その流れで
隣家でありながら
俺は三原家に
一泊させてもらう
ことになった

夫の雅之も
妻の玲那も
学生時代からの
友人だったので
話は盛り上がり…

妻の人夜

そして
その夜

俺と玲那は
スマホで
示し合わせて…

リビングで
逢い引き
したのだった…



今更…？
もうずっと
続けてきた
ことでしょう

いや
そうじゃ
なくてさ…

後悔したって
始まらないわよ



なんか
いいのかな

大丈夫よ
アノ人は一度寝たら
まず起きないから



最初は他愛のない
悩み相談だった

彼女は
子供ができず
夫婦仲が微妙なこと…
俺はいまだに
独り身であること…



そんな
慰め合いが
いつの間にか
こういう関係に
発展していた…

でも学生時代から
私のことを
想ってたなんて
気づかなかったなあ

うんまあ…
お前達仲が
良かったからさあ…

そうなの？

でもちゃんと
言ってほしかったなあ…







ああ…
ああ…背徳感で
頭がクラクラ
する…



こんなことを
させるなんて…!

親友の家で
親友の妻に…



いいわよね
満クン…



挿入れるから…!



ぐっ
ぐっ



満クンも
気持ちいい
でしょう？

あぁ

あああ…んっ！

すごく
気持ちいい…っ



ああ...
最高だよ!

セックスを
始める時:

彼女はいつも
自分が求められて
いることを
確認する...

それが
彼女にとって
最高の幸せ
なのだそうだ



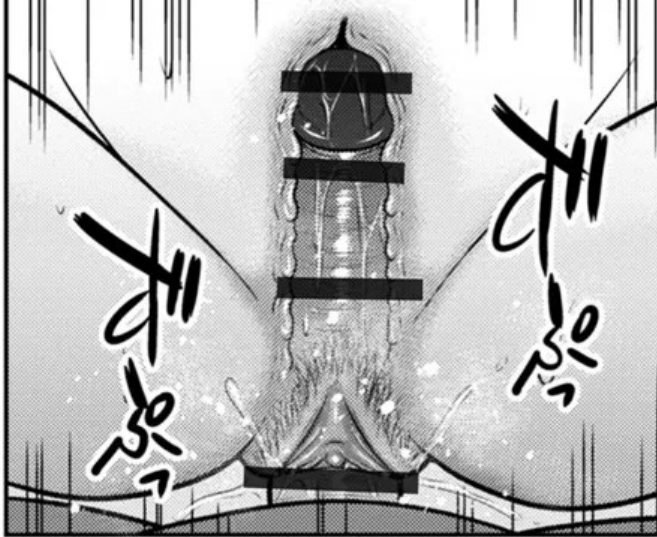
夫に女として
見られなく
なったしまった
妻と...

その妻を
ずっと思い続けた
独身男の慰め合い...

はぁあ

はぁあ

はぁあ



それがこの
関係というわけ
だった…

あゝ

あゝ

はゝ

あゝ



ああん…
わかる
満クン…

はゝ

はゝ

びびび

びびび

ぬぢぢ

ぬぢぢ



私のオマンコ
すっかり
あなたの
オチンチンに
馴染んじゃったわ…

はゝ

はゝ

ぬぢぢ



最初は随分
違和感が
あったのに…

はぁ

んあ

んあ
んあ



私の体は
もう完全に
満クンの
ものなのね…

んあ

んあ

んあ



ああ…
イクわ…

んあ

んあ

んあ

イク…

んあ

んあ

んあ



玲那は：
俺に言葉を
求めるけれど…

俺にはそんなモノ
必要なかった

あん

ふあ
あ



あの時
自分の気持ちを
打ち明けていれば…

ああ…

この
蕩けた顔が
玲那の感情を
雄弁に語って
いるからだ…！



はあん…っ

あ…っ



あ

あ

あ









END





なあハルオ
今日もお前の部屋
寄ってついでいいか？

えく
また？



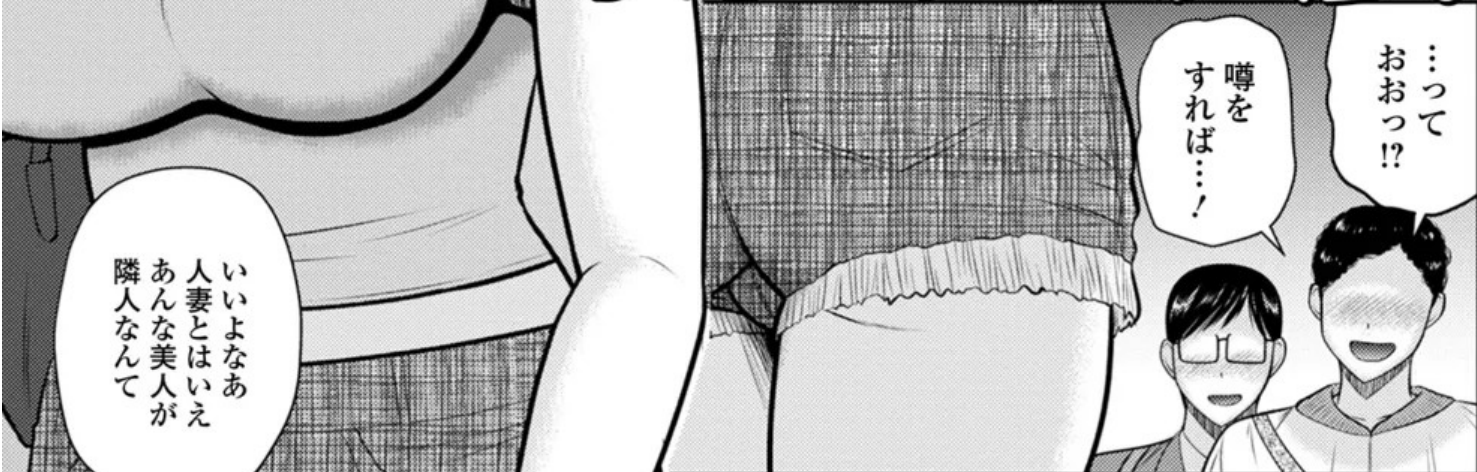
だってほら
お前の部屋
大学に近いしさ
便利なんだよ

そんなこと言って
本当の目的は
違うでしょ？

むりだよ
今日は用事が
あるんだから

とびちさ
戸張知佐さん
だっけ

妻の人パンツのホット



…って
おおっ!!

噂を
すれば…!

いいよなあ
人妻とはいえ
あんな美人が
隣人なんて



キラッ



いま
オレに向かって
会釈したぞ

バカいえ
オレだよ!

……



ほんと…

いつ見ても
良い格好よね
ハルオくん



この後の予定が
なにか知ったら
みんな驚くだろうな

ハハハ



ふふ…



その
数時間後…



だ大丈夫です！
もう一週間以上
オナ禁して
ますから…っ

ああ

ああ



言いつけどおり
ちゃんとオナ禁
してきたでしょうね？

ザーメンの量が
少なかったら
許さないわよ!!



ふふ…
たしかに
金玉がずっしり
重くなってる

フム

ああ…っ



偉いわよ
ハルオくん

たっぷり
可愛がつて
あげないとね〜

ああ…っ



ああっ



はあ…
チサ様…っ



モノ好きよねえ
私も…

こんな
オタクくんと
いい仲に
なるなんて…

たっぷ

たっぷ



君の態度があまりにアレなもんだから…

それはそれは本当に申し訳ありませんでした



いつまで大声出して遊んでるのっ!?

最初は近所トラブルで怒鳴り込んだのに…



……



いつのまにかこんな事になっちゃったわ

あっ

んん



何いつてんのハルオくん少しいじっただけじゃない!



ああ…駄目ですチサ様っ

あんまり扱かれると射精てします…っ

んん

んん

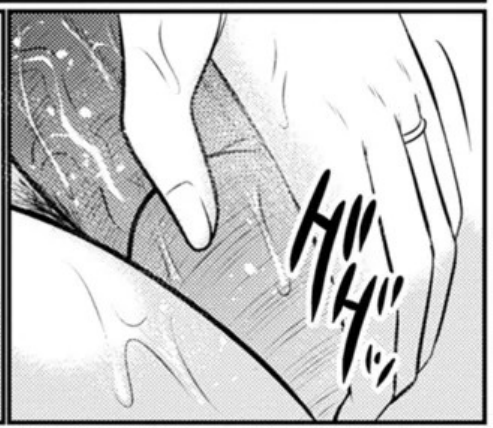
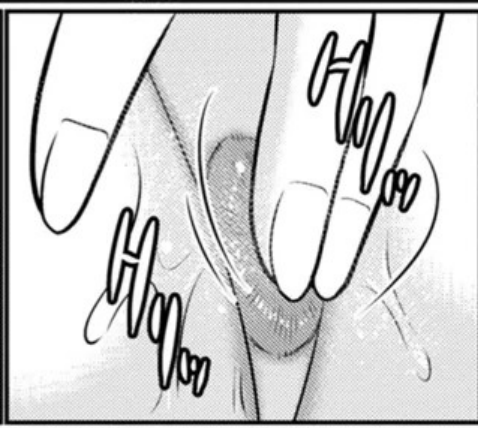


がんばって
我慢するのよ…っ！

勝手に射精したら
許さないから！



ああ…
あ…っ！！



おおおっ！！

ふうふうふう
うううう

んん…



どうすんのよ
これ…!?

あくあ
射精ちゃった

おあッ
おあッ

おあッ
おあッ
おあッ



ああ…

ふふ…
さすがオナ禁
してきただけあって
まだまだ元気ね



ごめんなさい
チサ様…っ



でもほら…
すぐ勃起
できますから…っ
やめないで
ください…っ



いいわ
許してあげる！

1618

1618

1618

そのかわり
してる最中に
萎えちゃ
嫌だからね！



ああん…っ
はい
挿入いっちゃった…！

あ

1618



あああ…っ！！



相変わらず
大きいわ…
ハルオくんの
チンポオ…っ



ほくら
どお?
待ちに待った
人妻マンコ!

はい
こつちも
どうぞ

ああん...っ



オマンコもおっぱいも
気持ちいいです...っ!!

ああ...
チサ様...っ

ああん

ああん



はあ：
いい反応だわ
ハルオくん…っ

ああ…っ



どうですか
チサ様
気持ちいい
ですか…っ!!

僕はチンコが
蕩けるくらい
気持ちいい
です…っ!!



わ悪く
ないわよ…っ

こいつ
本当に…

チンポだけは
いっちょ前
なのよね…っ!





ずっと
女性と縁のなかった
僕みたいな冴えない男と
寝てくれるなんて…

チサ様は
女神様同然です！



だから僕にとって
チサ様は
女神様なんですっ！

まったく…
どんだけ
ちよろいの
アンタ…!!
社会に出たら
苦労するわよ



でも…
まあいつか

おあ

グッ

こんだけ
気持ち
いいんだし…っ!!

ああ…凄い
締め付け
です…!

ぬちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ

ぬちゅ
ぬちゅ

ぬちゅ
ぬちゅ

ひゅん

ああ

ああ

僕のチンコで
感じてくれて
いるんですね
チサ様…っ!?

もう…!

いちいち
確認するなって
言ってるの!

ああん…っ

充分
気持ちいい…
わよっ!

ひゅん
ひゅん
ひゅん



ああん
本当にいい
このオチンポ…っ！

ああん

もう何度も軽く
イカされてる…



今まで
いろんな男と
やってきたけど…

ああん

まさかこんな
オタクくんの
オチンポが
一番相性が
いいなんて…っ



ああ…
また
来てる…っ
また
気持ちいい…っ！





ああ…チサ様
またイキそう
ですっ

のぼってきました…
もう射精ます…っ!!



いいわよ
射精してっ!

私もイクから…



イク…っ!!

ああ…っ



ああ
チサ様：
すごく気持ち
よかったです

あと…
まだイケます
から…っ



はー
すっきりした

そろそろ旦那
帰ってくるから
部屋戻るわ

あゝ
ところでアンタ
もしかして
同人誌ってやつ
描いてない

えっ!?

さつき部屋で
コレ見つけたん
だけどさ

コレ中に出てくる
男と女
完全にあたしら
だよな?

妻
ちた人

そそれは…

しかも内容が
男が女を
攻める話って…

あんな
そういう妄想
あったわけ?

すすいません
チサ様…

いいのよ…
っていうか
面白そうじゃん

今度
やってみない?

ええっ!?

END

トボトボ

オレの名は
河内一哉かわうちかずや

ごく普通の
時間を持て余した
学生だ

いらっしやいませ〜

普段はコンビニの
深夜勤務の
バイトをしているが
人手不足ということで
時々昼間にも
顔を出している

そこで
知り合ったのが
この女性

石垣麻由子いしがきまゆこさん

最初は年上の人妻
ということまで
遠慮もあったが
年も近いと
いうことで結構
仲良くなった

いらっしやい
ませ〜

そんな
ある日…

ねえ
一哉くん

今日仕事が明けたら
ちよっと付き合っ
てほしいんだけど…

ええ
いいですよ
時間ありますし

この時は
簡単な買い物とか
そんなことだろうと
思っていたのだが…

コンビニの人妻



一哉クンったら…
男だから
旦那の肩を
もってるのね？

…だめだ
こりゃ
早いところ
退散したほうが
いいかな…

とにかくオレに
相談されても
答えようがないと
いうか…



旦那に対する
仕返しのお手伝いを
して欲しいの！

えっ！…？



ダメよ
一哉クンには
もっと付き合っつて
もらわなくちゃ！！



そそれって
どういう
意味です？



石垣さんは
旦那へのあてつけで
俺と寝るつもりって
こと...!?

つまり
あれか...



なんて
こった...



まさか
そんな...

はは...

嫌じゃ
なかった...?



...おまたせ
一哉くん

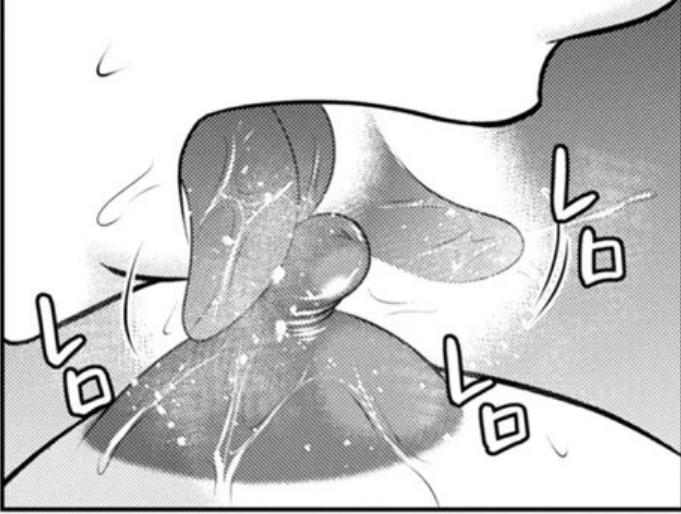
ごめんね
変なことに
巻き込んだじゃって...

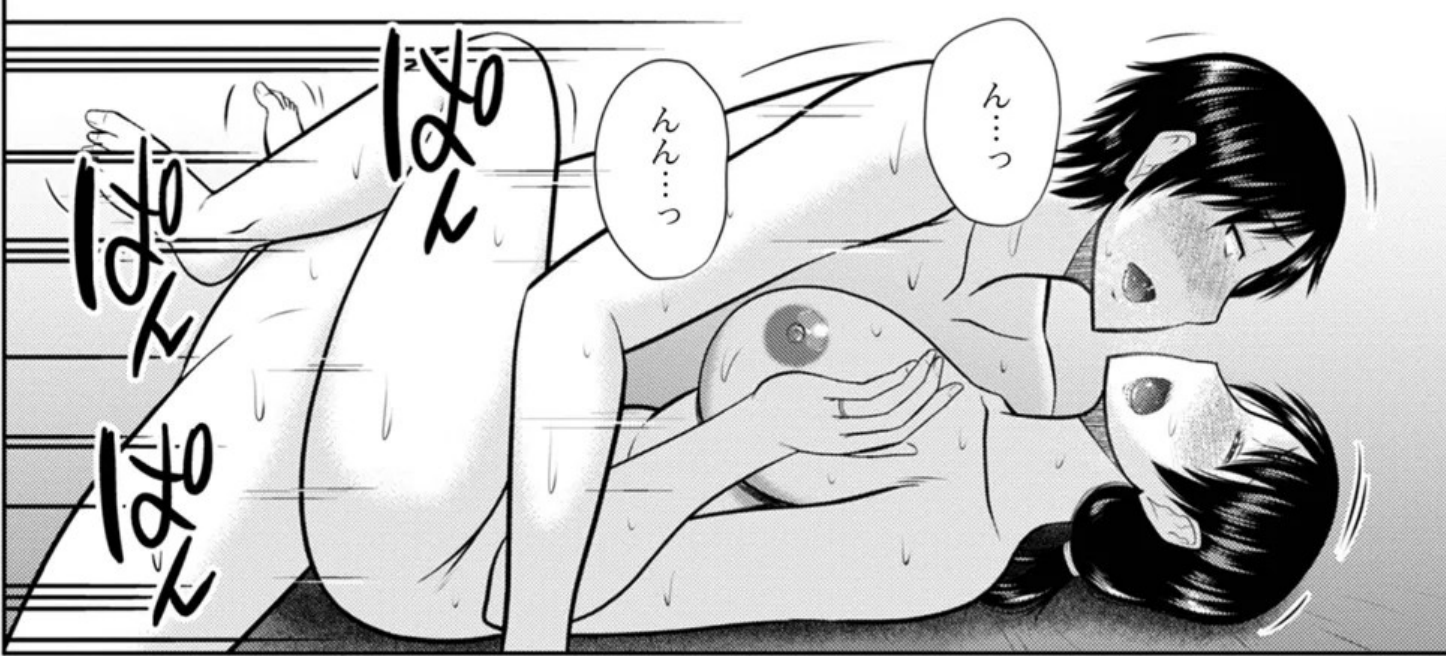














そんなに俺の
気に入って
くれました...!



ああん...っ



もう
ダメえ...っ!

ああん...っ



一哉クンの...
熱くて硬くて...っ

すごく
気持ちいい...っ



あ

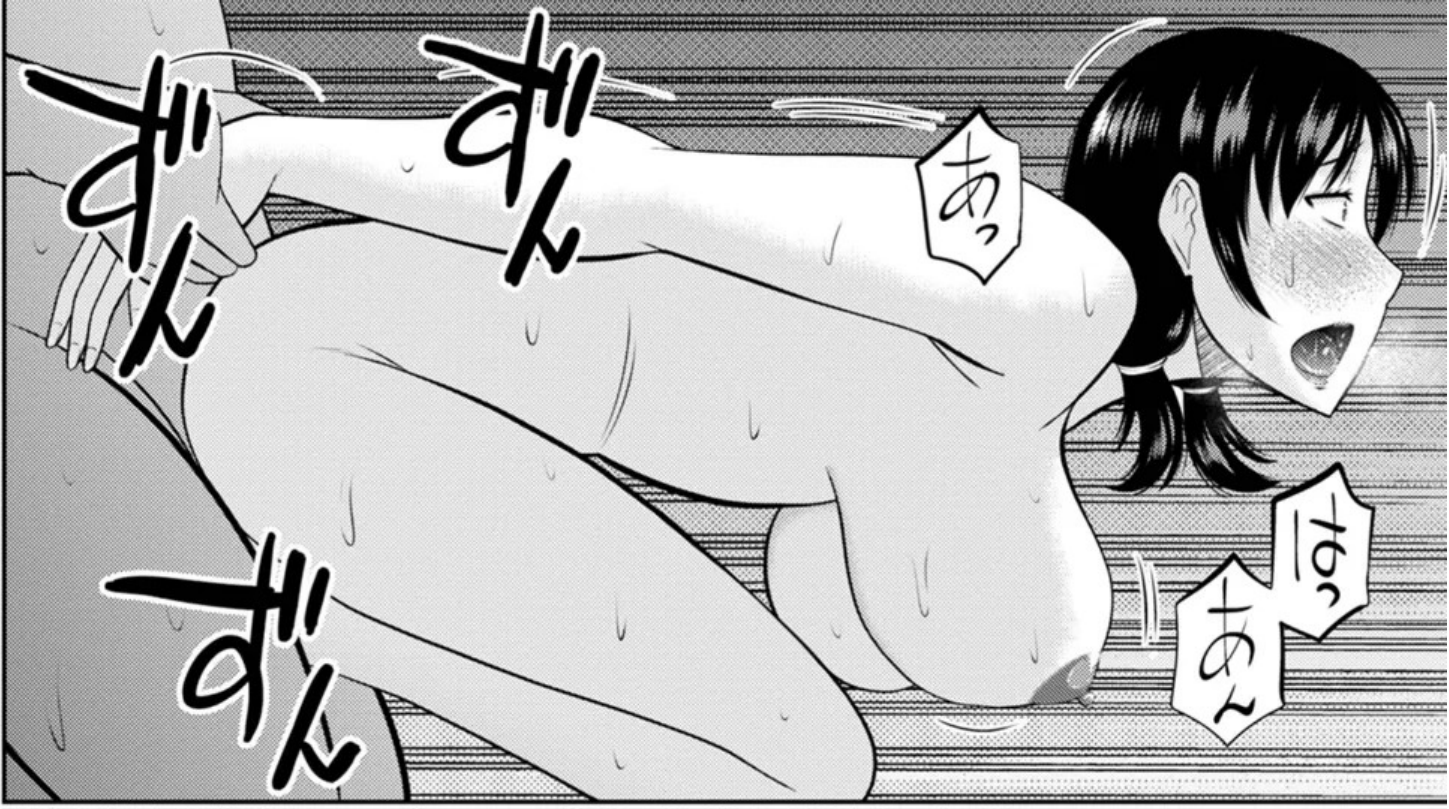
ああん



ああん

奥までゴリゴリ
されてるう...っ!







やっぱり
旦那さんの
浮気疑惑は
石垣さんの
勘違いだった
らしい...

